



潤^{うる}い^おの水^み辺^ず、甦^{よみがえ}るとき

水は人を呼び 流れは街を育んだ。 川は母。

天より降り大地を走り海に至る。

水の流れのなんと恵み豊かなことだろう。

エジプト五千年の悠久の歴史が

ナイルの賜と永遠に語り継がれるように

かつてどの文明が川を離れてあり得たろう。

はるか昔より東国の葦繁る原野を

滔滔と流れる川があった。

時が移り、浅草川、大川とも呼ばれたその川は

世界一の人口をもつ大都市江戸を育て

いままた世界都市東京の

新しい顔になろうとしている。

隅田川。

まぎれもない、東京の母なる川。







花火大会



早慶対抗レガッタ



江戸流しびな



王子神社田楽舞



西新井田大師

流れに寄り添うように
暮らしが見える。
川は営み。

寺がある。市が立つ。神輿がうねる。
花火があがる。桜が舞う。
下町の暮らしと四季を川面に映し
隅田川は粋に人々と交わる。
川は生きる力。川は生きる勇氣。
川は活力。川は光。
流れこそ、人の営み、いのちそのもの。
川のほとりでは
きょうも何かが新しく生まれている。



隅田公園桜まつり



国技館5000人の「第九」コンサート

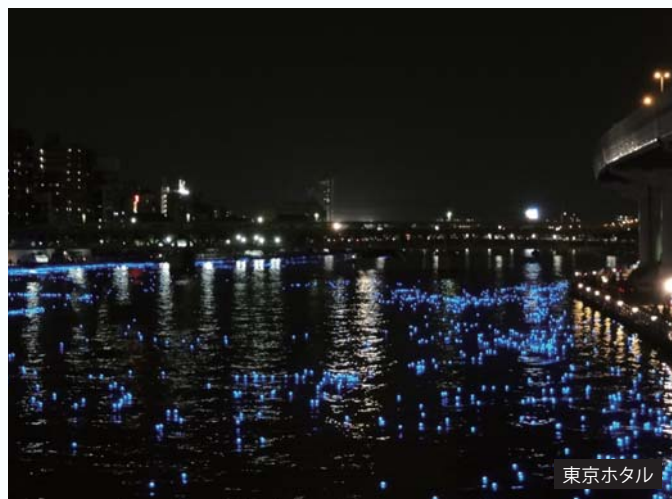


両国と相撲



深川八幡祭り

全長23・5キロメートル。北区、足立区、荒川区、台東区、墨田区、江東区、中央区の沿川七区を流れる隅田川。その豊かな流れは文字通り東京の母なる川として、はるか昔から人々の文化や生活に深く結びついてきました。
名にしおはば いざ言問わむ都鳥
わが思う人は ありやなしやと
古くは平安の昔 在原業平が隅田川を舟で渡るときに詠んだという「伊勢物語」の記述や、謡曲「隅田川」の舞台にもなってきたことは、今日広く知られています。
隅田川沿いの地域文化が本格的に興隆してきたのは、一五九〇年の徳川家康の江戸入城以後のことです。幕府による江戸の町づくりが着々と進められ、隅田川にも両国橋がかかり、川沿いには日本堤や隅田堤などの堤防が築かれました。当時、江戸庶民にとっては隅田川の堤は絶好のレジャーの場でした。春は花見、夏は夕涼み、秋は月見、冬は雪見と四季折々の風物を楽しんだのです。
そして隅田川沿いの町々には多様な文化が華開きました。それらの文化は、多くが庶民によって創造され、育まれ、愛されてきたところに、大きな特徴があります。観音といえば浅草。花火・相撲といえば両国。祭りといえば三社、深川。今に残る江戸庶民文化のほとんどは、この隅田川沿いに集まっています。浅草川、宮戸川、大川とも呼ばれ、親しまれてきた隅田川。この川なくしては今日の東京を語ることはできません。そして、この川がある限り、東京にはまた新しい何かが生まれてくるのです。





北斎／大川橋（絵本隅田川兩岸一覽より）



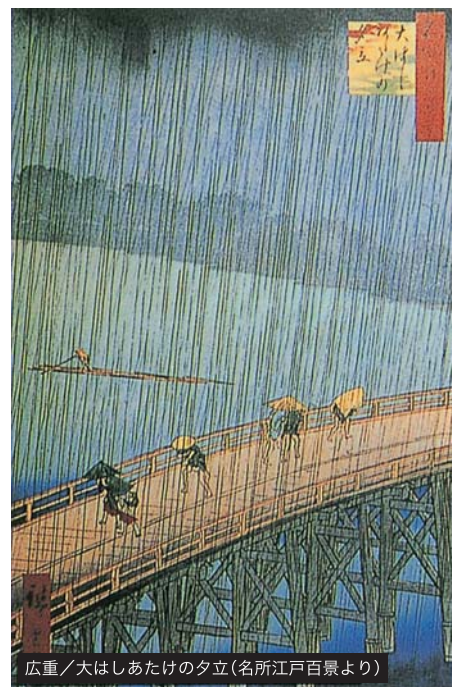
ときに美しく 「大川」は人と交わる。 川はアーテイスト。

往き交う人々。憩う人々。
春夏秋冬、織りなす風物の壮大なパノラマ。
千変万化の隅田川の表情は
人の魂を揺り動かさずにはおかない。
いつの時代も、流れは詩
川は感動。

江戸の庶民文化を華開かせた隅田川は、わが国が世界に誇る偉大なアーテイストとも、深い係わりをもっています。鬼才といわれた江戸の絵師葛飾北斎は「絵本隅田川兩岸一覽」で、川とそこに往き交う人々を生き生きと描きだしています。北斎は八十九歳の生涯すべてを、この隅田川べりで送ったのでした。北斎と肩を並べる一方の雄、安藤広重もまた、隅田川の美しさに魅せられた一人でした。広重は「名所江戸百景」の中で隅田川が織りなす風景を実に印象深く描き、その絵はゴッホに大きな影響を与えました。絵師のみならず、鶴屋南北、山東京伝などの文人たちが、そして俳人の松尾芭蕉が愛し、暮らした隅田川。その流れがうるおし、育んできた一条の文化は、現代東京の、そして日本文化のルーツなのです。



向島付近(明治期)



広重／大はしあたけの夕立(名所江戸百景より)



北斎／両国橋(絵本隅田川兩岸一覽より)



向島付近(大正7年)



広重／両国大花火(江戸名所四十八景より)

いま新しい夢をのせて 流れは未来へ。 川はワンダーランド。

人は川を忘れてはいけ
ない。
街は流れを置き去りに
してはいけ
ない。
水辺は飲
び。きらめく世界。

大人も子供も

歌い、踊り、夢を描き、希望を語る

ぼくらの川が甦る

隅田川ルネッサンス――

江戸、明治、大正と人々に親しまれた隅田川も時代の流れとともに、戦後はその姿を大きく変えなければならませんでした。高度経済成長の東京膨張の中で、水質は確実に悪化。たび重なる水害から沿川住民を守るために築かれたコンクリートの堤防は、治水に高い効果をあげた反面、人と川との接触を隔ててしまいました。やがて時代がまた一めぐりし、社会が安定期をむかえ人々が暮らしに何よりも安らぎを求めるようになったいま、川は人々にうるおいを与える大切な場として、再び大きくクローズアップされるようになってきました。隅田川の早慶レガッタ復活、花火大会の復活は、人々の川への記憶が強く甦ってきたことの表われです。

川は、いわば地域のいのち。水とのふれあいのある地域づくりを進めたい。隅田川沿いの町を、うるおいあふれる未来の町にしたい。こんな目的のために、隅田川の堤防と、その背後地一帯を新しく快適な住環境に創りあげるスーパー堤防整備事業を進めています。



明石地区

中央大橋付近



スーパー堤防と緩傾斜型堤防の構造



隅田川をうるおいのある水辺に甦らせる
スーパー堤防整備事業がすすんでいます。



東京都では、隅田川沿いの東京東部地域を過去の歴史の蓄積を生かしながら、うるおいのある「水の都」へと再生を図ることとしています。こうした背景の中、隅田川の堤防は、コンクリートの直立堤防、いわゆる「カミソリ堤防」と呼ばれる従来型から、盛土により構成される幅の広い堤防用地をもち、水辺環境の向上が図れる緩傾斜型堤防と呼ばれるタイプの堤防の整備を昭和55年度に着手しました。また、堤防用地確保の効率化と治水・耐震性について、さらに安全性が向上するスーパー堤防の整備を昭和60年度から実施しています。このスーパー堤防は、隅田川の背後の建築等の市街地再開発や公園等の再整備と一体となって実施するもので、土地の合理的な活用が図れるものです。東京都では、この両堤防のうち、可能な限りスーパー堤防で整備することとしています。



吾妻橋地区(着手前)



吾妻橋地区(完成)



新川・箱崎地区(着手前)



新川・箱崎地区(完成)



明石地区(着手前)



明石地区(完成)



新川地区より大川端地区を望む

過去の水害



狩野川台風による被害(昭和33年9月)
江東区大島付近



キティ台風による被害(昭和24年8~9月)
墨田区錦糸町付近



カスリーン台風による被害(昭和22年9月)
総武線平井駅付近



関東大震災による被害(大正12年9月)
荒川:現隅田川
本所区横網町安田邸前:現墨田区横網町

過去の水害や震災の歴史をくり返さないためにも
スーパー堤防の整備が急がれます

主な水害記録

年別 区分	明43.8 (1910)	大6.9 (1917)	昭13.8 (1938)	22.9 (1947)	23.9 (1948)	24.8 (1949)	33.7 (1958)	33.9 (1958)	41.6 (1966)	54.10 (1979)	56.10 (1981)	57.9 (1982)	平成元.7 (1989)	3.9 (1991)	5.8 (1993)	平11.8 (1999)	平17.9 (2005)
災害種別	暴風雨 (洪水)	暴風雨 (高潮)	暴風雨 (高潮)	ガスリン台風 (洪水)	アイオン台風 (洪水)	キティ台風 (高潮)	第11号台風 (高潮)	第22号台風 狩野川 (洪水)	第4号台風 (洪水)	第20号台風 (洪水)	第24号台風 (洪水)	第18号台風 (洪水)	集中豪雨 (洪水)	第18号台風 (洪水)	第11号台風 (洪水)	集中豪雨 (洪水)	集中豪雨 (洪水)
気圧 (mb)	995.2	952.7	978.6	992.3	971.9	985.9	986.1	970.7	981.9	976.1	968.6	965.0	—	989.1	979.1	—	—
時間最大雨量 (mm)	45.1	16.5	30.2	34.7	38.8	12.6	17.9	76.0	29.0	47.0	51.0	65.0	70.0	60.0	76.0	115.0	112.0
総雨量 (mm)	283.9 (7~11日)	161.6 (28~1日)	144.1 (31~1日)	166.8 (13~15日)	158.0 (15~16日)	66.0 (31~1日)	108.5 (22~23日)	444.1 (22~27日)	234.5 (27~28日)	251.0 (18~19日)	221.0 (22~23日)	313.0 (11~12日)	276.0 (31~1日)	376.0 (18~19日)	345.0 (26~28日)	128.0 (29日)	263.0 (4~5日)
風向・最大風速 (m/S)	NW9.9	SSE39.6	S31.0	N15.0	NNW18.7	ESE26.0	S22.8	WNN20.5	N15.5	Sl7.5	NNW14.4	Sl8.4	—	Sl9.6	NNW12.2	—	—
潮位 (A.P.m)	—	4.21	2.89	2.50	2.65	3.15	2.89	2.91	—	3.55	1.86	2.67	—	2.11	1.74	—	—
浸水面積 (km ²)	201.43	86.60	77.90	114.33	28.64	92.01	29.46	211.03	87.62	1.46	19.59	16.16	0.82	1.78	3.42	1.54	1.72
床上浸水家屋 (戸)	133,307	131,334	42,867	80,041	529	73,751	13,459	123,626	16,159	180	6,854	7,574	1,929	561	2,454	2,900	3,374
床下浸水家屋 (戸)	44,750	49,004	65,703	45,167	16,516	64,127	22,970	340,404	86,737	1,550	35,167	16,712	2,755	3,120	5,079	2,193	2,453
死傷者 (人)	169	1,524	38	11	24	122	133	203	9	99	4	0	0	1	0	0	—

明治43年8月災害……………東京市史稿変災篇第3
大正6年9、10月災害……………東京市史稿港湾篇第1
昭和13年8、9月災害……………内務省東京土木出張所
「昭和13年大洪水」による
昭和22年9月災害……………東京都水災誌
昭和23年以降水害……………東京都建設局調べ
昭和36年以降水害……………水害統計調査(建設省)

東京の東部低地帯のように大半が海面下で、人口や資産の集中が著しい地域では、水による被害が実に深刻でした。台風や豪雨のもたらした過去のたび重なる水害の記憶が、今でも生々しい方も多いかと思われまます。また、関東大震災(大正12年)は、市街地を壊滅状態にしました。
隅田川の現在の防潮堤は、昭和32年に着手し、昭和50年に完成したもので、治水に大きな効果をあげています。スーパー堤防は、こうした台風や豪雨、大地震に対してもさらに安全な堤防として、その事業推進に大きな期待が寄せられています。

隅田川堤防の歴史



低地対策河川事業の沿革

昭和 10		年度 20		30		35		40		45		50		55		60		平成 元		年度 5		10		15		20		25																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
総合高潮 防御事業				災害土木助成事業 一般高潮防衛事業				外郭堤防修築事業				高潮防御施設整備事業																緩傾斜型堤防整備事業、スーパー堤防整備事業										耐震対策事業																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

スーパー堤防

構 造

- 川沿いの根固め部（テラス）とその背後の緩やかな勾配の盛土で構成される、幅の広い堤防です。

特 長

- 堤防が幅広くなることにより、大地震や高潮に対してより安全性が高くなります。
- スーパー堤防の整備は、沿川地域の建物の建替えや市街地再開発など街づくりと一体的に行うので、土地の有効活用が図られます。
- 緩やかな勾配の堤防であるため、人々が川に近づき水面や対岸を眺めることができ、川と街のつながりができます。
- 堤防上に広いオープンスペースが確保できるため地震や火災等の災害等、避難場所としても利用できます。
- 堤防前面のテラス部分を利用して、親水性の向上を図れるとともに、生き物に配慮した川づくりができます。

◎スーパー堤防整備事業対象河川

荒川水系
利根川水系

隅田川
中川
旧江戸川
新中川
綾瀬川



スーパー堤防等整備事業 実施箇所配置図



※概成地区とは計画延長に対して80%以上完成している地区





ふるさと隅田川

永遠のいのちが流れとともに…

パリのセーヌ川、ワシントンのポトマック川。世界を代表する都市には美しい川があり、人々はその流れを愛し、誇りにしています。隅田川も清く、人との交流が豊かな川でした。

川をわたしたちの未来へ、子孫へ美しい姿で残すのは、現在を生きるわたしたちの責任でもあります。隅田川を水と緑あふれる世界に誇れる川につくりかえたい。わたしたち東京都民のふるさととして、いのちとして甦らせたい――。

こんな願いをこめて、東京都はいま、スーパー堤防整備事業を進めています。この小冊子を通じて、どうかその趣旨をご理解いただくとともに、事業推進にあたり、隅田川沿川のみなさま方のご協力を賜われれば幸いです。

